

研究soだより

楠野 晋一

2017年3月4日(土)~5(日)に、第12回全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京「-生きづらさに抗して、ともに生きる社会をつくる-」が駒澤大学 駒澤キャンパスで開催されました。1日目は、開会あいさつ、基調講演、全体シンポジウム、テーマ別分科会Ⅰがおこなれ、2日目にはテーマ別分科会Ⅱ・Ⅲ、終わりのつどいがおこなれました。今回の集会の参加者は1017名と、多くの人がつどう集会でした。

大会の基調報告では、「若者ととともに社会をつくるとは？」と題し、これまで支援者を中心とした集会から、その家族や当事者の参加があったことや、ひきこもり支援だけでなく個々の状態への支援、場づくりへと広がり現状を踏まえ、みんながともに力を出し合い解決していく方向性が生まれていることを確認しました。

とくに、本集会では「協同実践」の意味を、1)固定化された役割関係を超え、社会に向き合う者同士としてのともに学び合い育ち合う協同、2)理念や手法・分野の違いを認め合いながら課題を共有し、ともにより良い実践をすすめて行くための協同、3)現場の実践と制度・事業との調査の元に、ともに地域社会をつくっていくための協同としています。

全体シンポジウムにおいても、「ともに学び合う実践交流会から、ともに創る出す協同実践に向けて」と題し、3つの協同の視点から新たな社会的価値を「創造する」

という次元にもアプローチすることを軸としながら議論がおこなわれました。

また、テーマ別分科会は、1)多様な「居場所」をつなぐ、2)住まい・生活を視点として、3)ともにたたく、4)生き心地のよい多世代共生を育む地域づくり、5)官民で開く若者支援、6)わかもの支援と発達障害・精神障害、7)不登校・フリースクールをめぐる行政と民間の連携、8)「若者の性」と支援の8つのカテゴリーにおいて議論が交わされました。

私も、「ともにたたく」カテゴリーの「しごとづくり」のテーマの議論に関わらせていただきました。この分科会では、基調講演にNPO法人地域再生機構の駒宮博男さん、テーマの議論のレポーターには、NPO法人縁活の杉田健一さん、一般社団法人Moonlight Projectの飯島学さん、NPO法人ワーカーズコープの竹森幸太さんから実践の報告がありました。

ここでの議論は、新しく仕事をつくり出す意味は「認め合う」、「支え合う」、「育ち合う」、「地域をともにまもる」ことの実現に向けた思いが核にあることが発見されました。そこには、人々が生きていく中で「あたりまえ」だと思われていることが、既存の社会において実現することが難しい現実が根底にあります。そのため、新しく仕事をつくることは、こうした「あたりまえ」をつくることによって「人-人」、「人-自然」の関係性を再構築していく取り組みであることを、参加者で共有することができたと思います。